


# ぼくのおかあさん



ぱやさく

R18




組織検査の結果ですが…

悪性腫瘍が  
確認されました

胃の上部の病変が  
原発と見られ、


肝臓とリンパ節への  
転移も認められます



…現状では  
ステージ4と  
判断されます

完治を前提に  
お話するのは  
難しいですが…

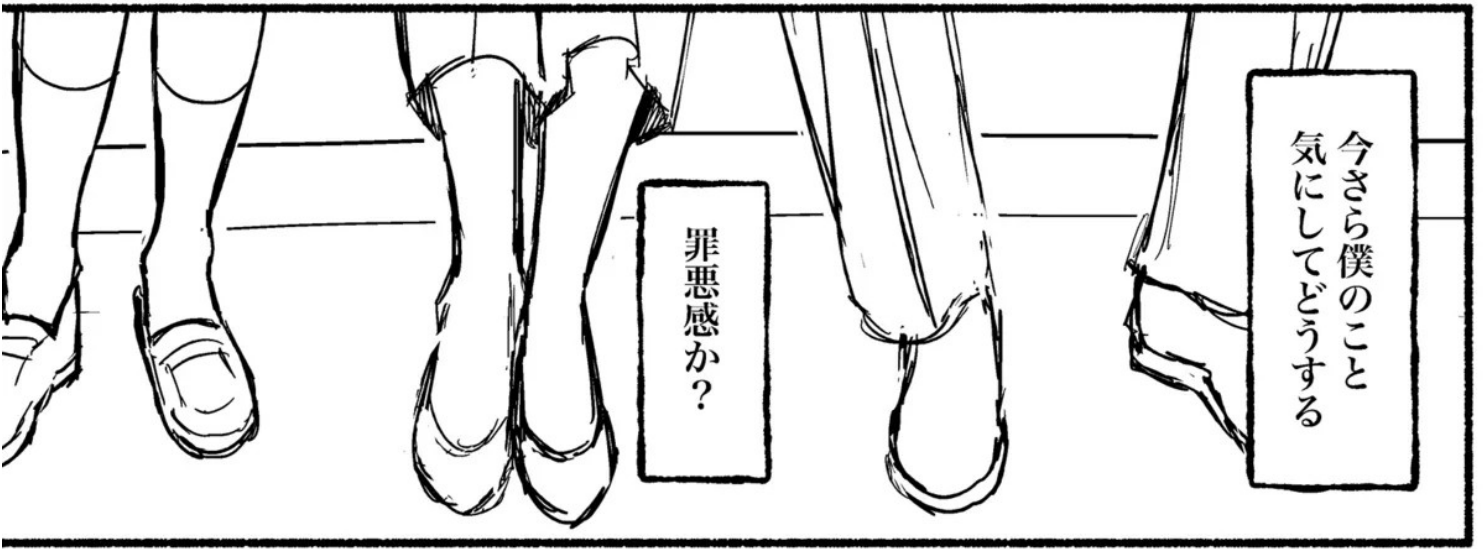
治療法が全くない  
わけではありません



抗がん剤治療によって  
進行を遅らせる方法

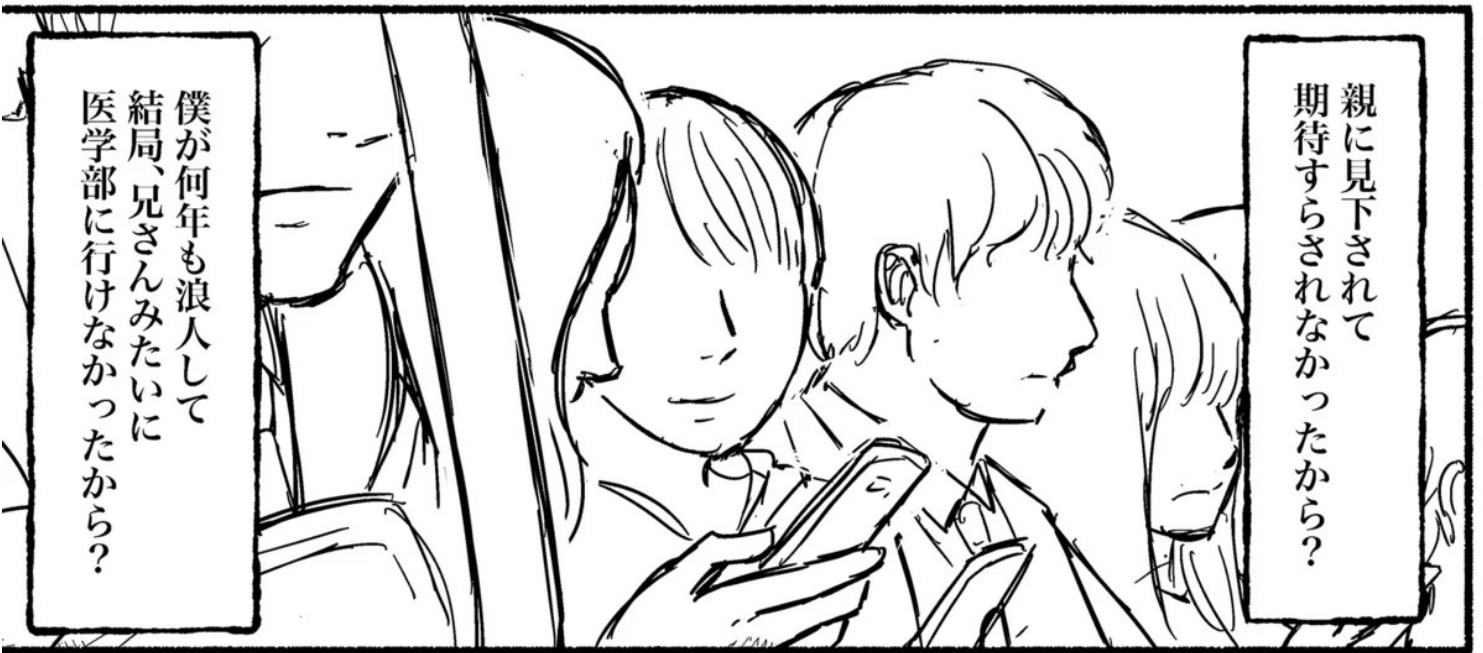
また、症状緩和を中心と  
した治療も選択肢として  
考えられます

…モリタさん



今さら僕のこと  
気にしてどうする

罪悪感か？



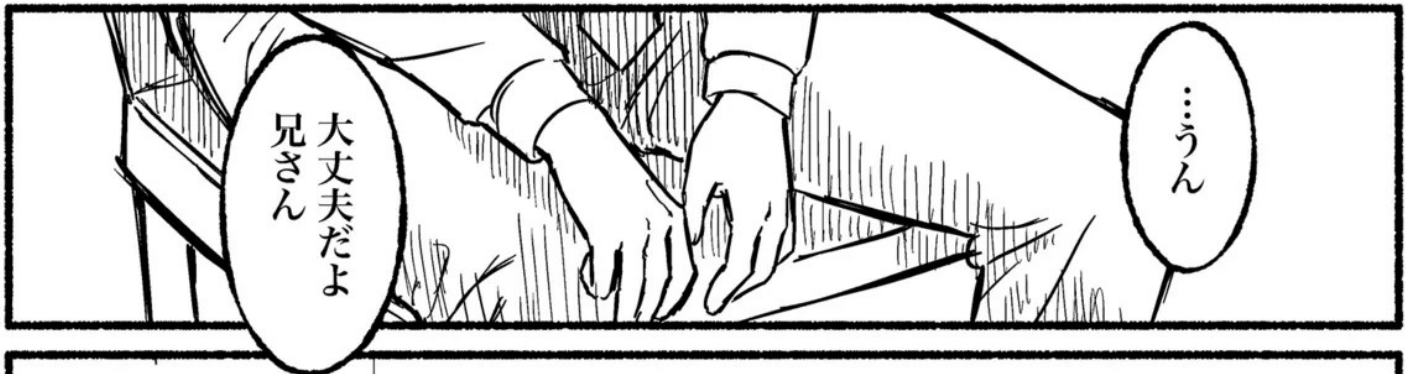
親に見下されて  
期待すらされなかつたから？

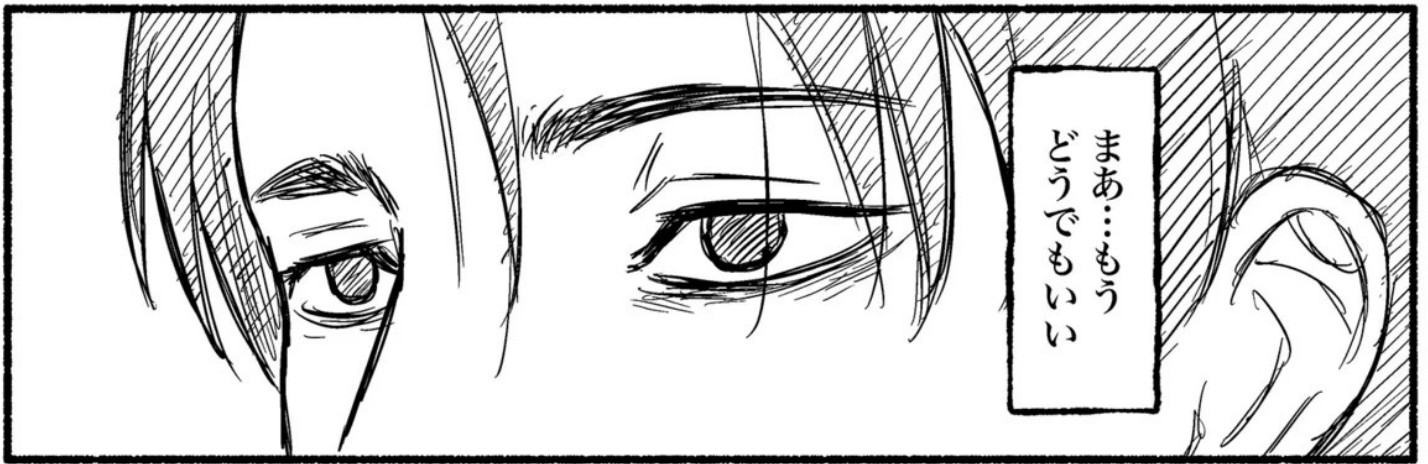
僕が何年も浪人して  
結局、兄さんみたいに  
医学部に行けなかつたから？



…二週間前に会社を辞めたことも  
隠して毎日公園に出勤して  
時間を潰してることに  
気づいたからか？

…僕だって  
好きで出来損ないに  
なったわけじゃない





まあ…もう  
どうでもいい



あーあ

僕…余命宣告ってやつか

不思議と  
胸の奥がすつとする



そもそも—

この世で俺を愛してくれた  
人間なんていたのか？

幼い頃に飼ってた  
ココちゃん



僕の後をちよちよこ  
ついてきて可愛かったな…  
死んだ時はあんなに泣いたのに

それから…

あれ？

いない？

一人も？

そうなんだ

僕の人生は

「獣畜生以外には  
誰にも愛され  
なかった人生」

ってわけだ

誰も、僕のことを――

コウさん





クワガタ…？

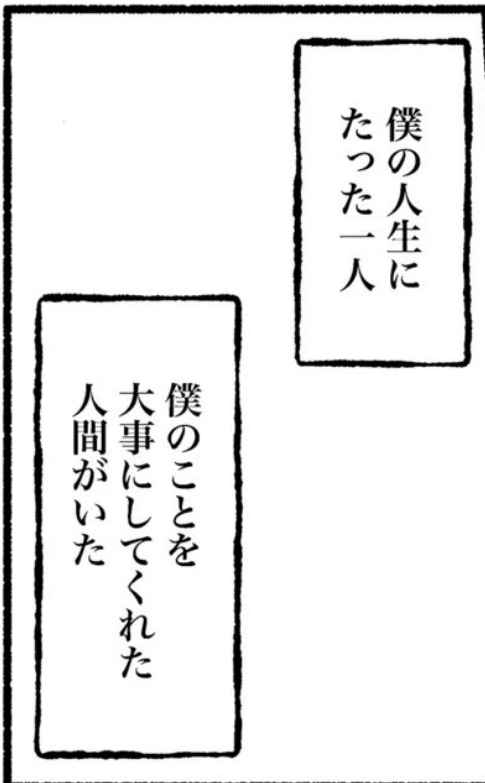
…いらねえ

〇〇



これあげる

ミライくん…



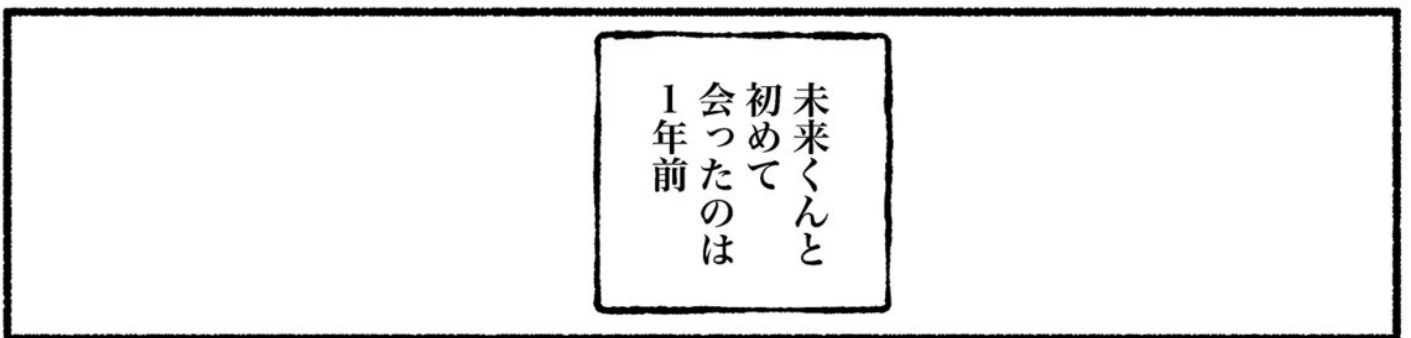
僕の人生に  
たった一人

僕のことを  
大事にしてくれた  
人間がいた



…ありがとう  
ミライくん

そうだー



未来ちゃんと  
初めて  
会ったのは  
1年前



わああああ  
ああん!!



ちよつと傷を  
見せてごらん



ボク、大丈夫?



消毒液を塗って...



軽い傷だね

大丈夫  
すぐ治るさ

おじさん：  
お医者さんなの？

ヒクッ

…まだ、違う

あの時から  
だったかな

ミライくんはやけに  
僕に懐いてて

暇だった僕はミライちゃんと  
よく遊ぶようになった

アイス  
美味しい？

うん！

ミライくんさー

そのクワガタ  
どこで捕まえた？

えーっと

学校の隣の  
裏山で

塾の  
あとか？

うん

…嘘だな

まくた塾  
サボったか？

テストの点  
落ちちゃうぞ？

そうになると  
お母さんに  
叱られるだろ？

……

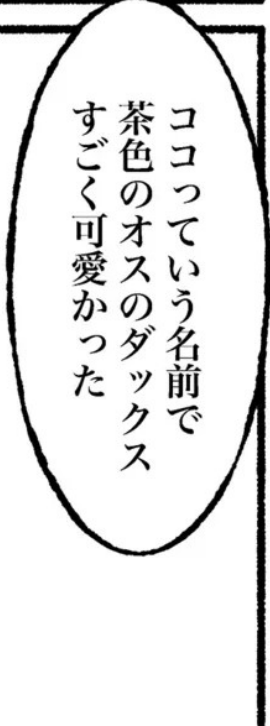
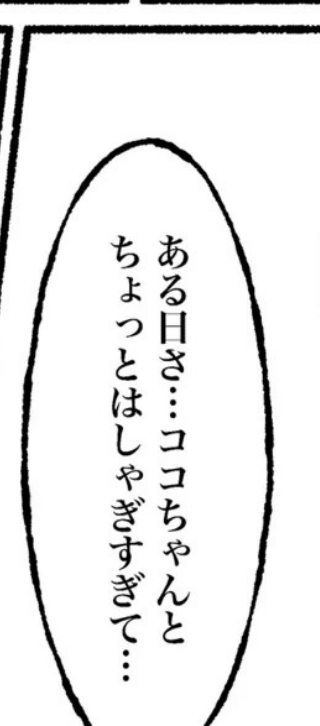
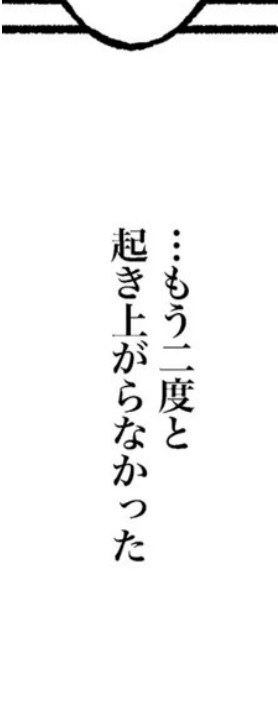
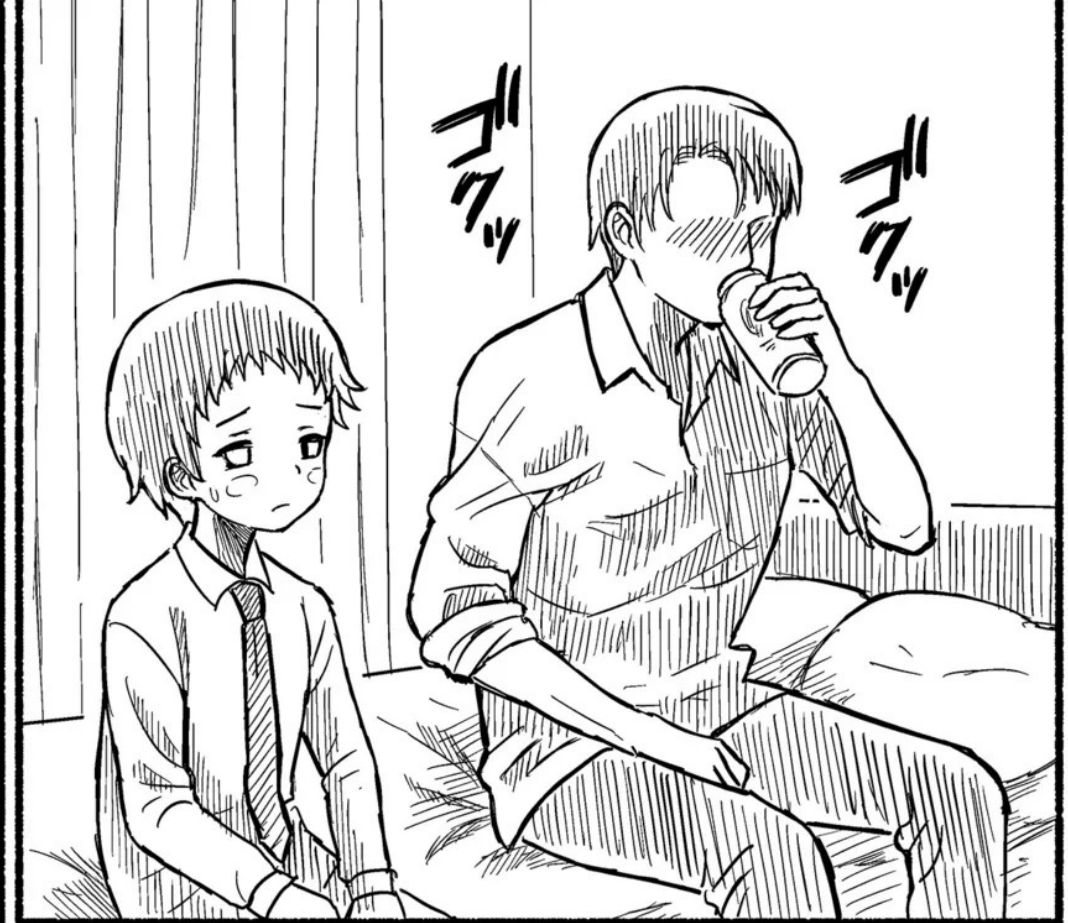
ミライくん  
テストの点  
悪かったかい？

…ん

うう…

ミライくんのお母さんに  
テストの点がバレたら…





僕……悲しくてさ  
親に見つからないように

ココちゃんを鞆に入れて……

会いたくなるたびに  
こっそり出して見てた

一週間くらい  
経った頃かな……

腐った匂いで親にバレて  
ものすごく怒られた

屋根裏に閉じ込められて  
飯もくれなくて

悪かったって  
何度も謝ったけど……  
出してもらえなかった

寒くて……一人で……  
すごく、怖くて……

……そのあと  
どうなったと思う？

……僕さ  
透明人間みたいになった

家族みんな  
一斉に僕を無視し始めた

……ただ誰かに  
見てほしかった  
だけなんだ

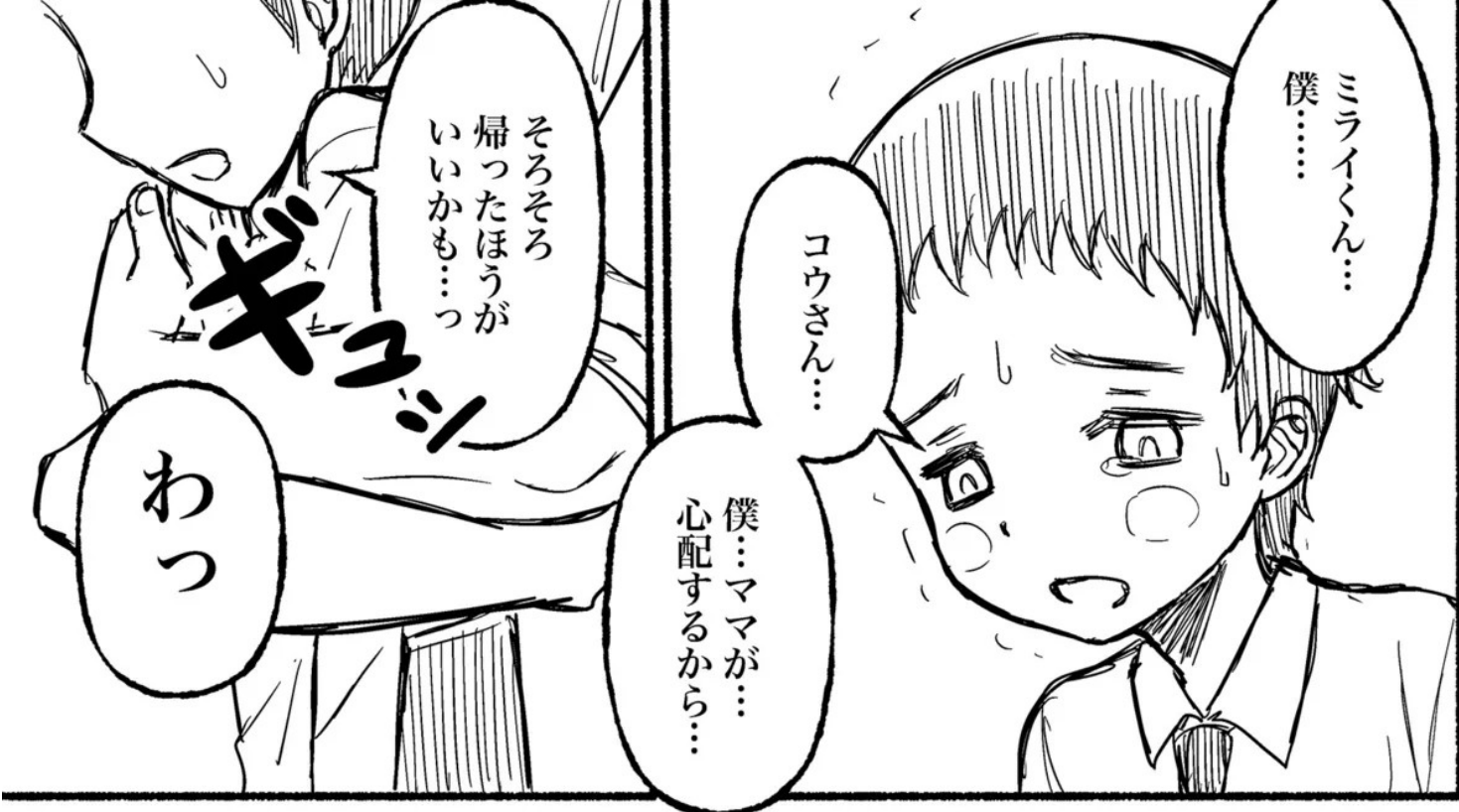
必死で勉強して……  
医者になって……

兄貴みたいに  
たくさんの人を  
助けたかった

でも  
なれなかった

誰からも  
愛されることもなくて……

僕……  
どうすればいい……？







やああつ

ミライくん...



もうおじさんとは  
会えなくなる

...寂しいだろ?

だからさ...  
最後に思い出作ろう



おじさんさ...  
大きな病気に  
なっちゃって

いや...



もうすぐ  
死ぬんだって



ココちゃんも…あんなに可愛がってたのに



ココちゃんが俺と兄貴どっちのところに行くかってふざけて賭けをした時—

兄貴の方へ迷いもなく走っていくココちゃんを見て

どうしようもなく腹が立って

軽く叱るつもりだったのに



そのまま息が止まってしまった…



大丈夫だよ



…っ

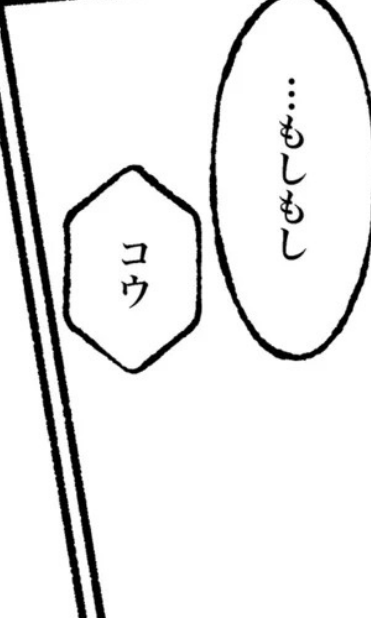
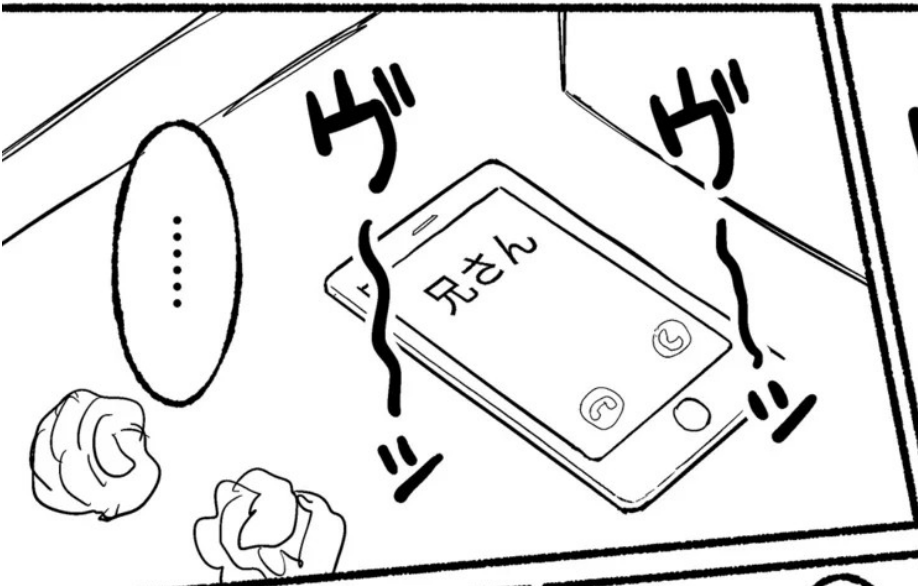
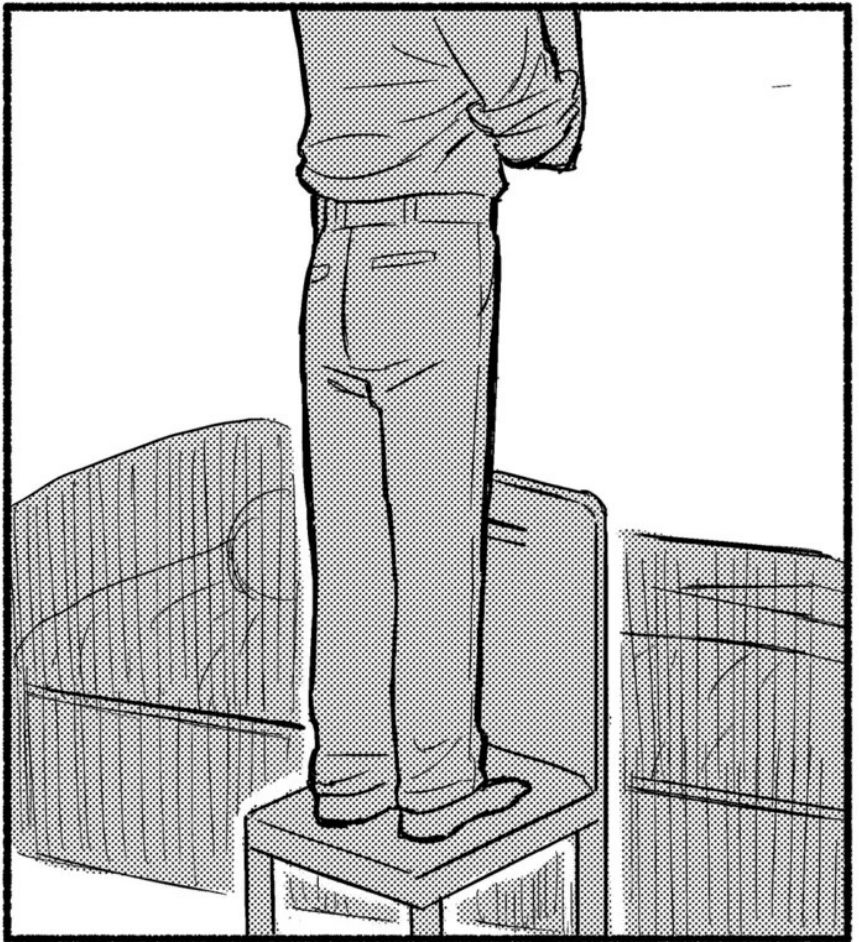
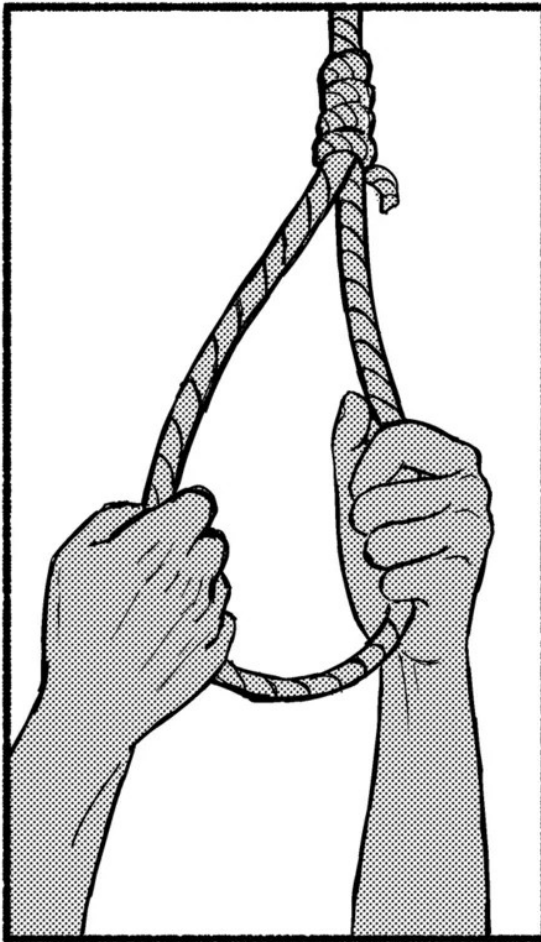
ミライくんには愛してくれる親がいてちゃんと帰る家がある

きっと幸せになれる

僕には何もない…

ほんの少しでいい僕に思い出をくれ…





結論から言う

お前に説明したCT:  
別の患者のものだった

今日の検査結果に  
大きな誤診があった

…再確認したが  
悪性腫瘍は見られない

少なくとも  
末期じゃない

何それ…

転移も  
今のところ  
否定的だ

…聞いているのか?

何それ  
何それ  
何それ  
何それ

おい…

イチッ



今でも…

ミライくんを…

何でだよ…

何で今更…



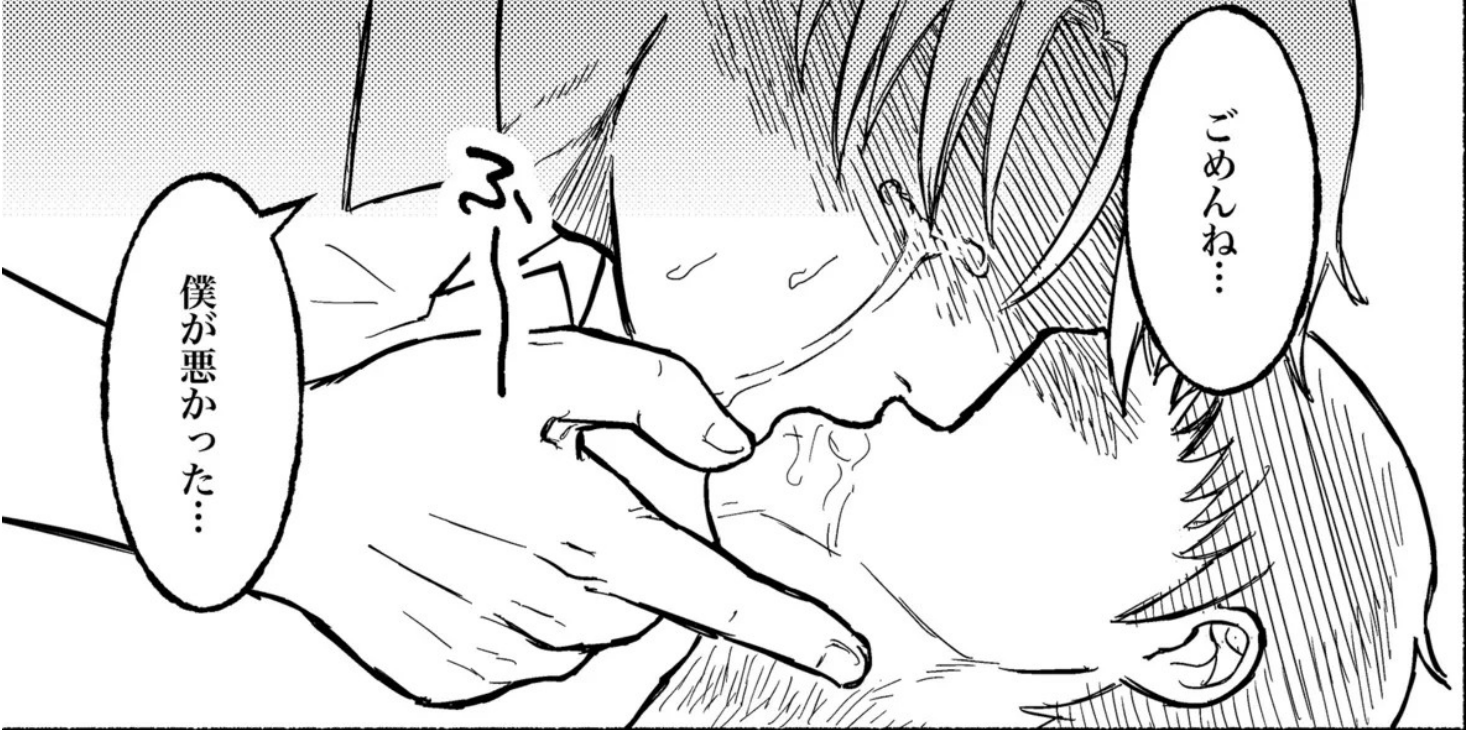
ミライくんを  
送り返せば…

そしたら僕は…



息…してない…





僕が悪かった...

ごめんね...



僕を助けてくれ...

お願い...

お願いだから

バキッ  
バキッ



ミライくん...

お願い...

# あとがき

こんにちは、ばやです。

この本を手にとっていただき、ありがとうございます。

これまでずっと二次創作をしてきましたが、自分に一次創作が描けるのか知りたくて本作を描くことになりました。

末期がんと診断された人の誤診というリアリティがない設定ではありますが、あくまでフィクションとしてお読みいただければと思います。

この物語は、5年前から思っていたものです。当時の私は毎日が不安で、何もできない状況でしたが、そんな中で、「もし自分の余命があと1年だと分かっていたら、きっと何でもできるのに」と考えました。

死にたいという意味ではありません。

ただ、不安から解放されたいという気持ちでした。

本当に“死にたい”と願っている人はいなくて、ただ今の苦しみから抜け出し、自由になりたいだけなのかもしれないと思いました。

個人的に私は生きる理由も存在する価値もない人間がそれでも生きようとする物語に救われるタイプです。読んでくださった方に少しでも慰めになれば幸いです。





ぼくのねがい

発行日 2026.02.22

発行人 ぱや

サークル名 発狂ペピーター

印刷所 サングループ

Twitter (X) Ya355932